

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人創人会
施設名	きらり遊愛保育園
報告者（役職）	笠原 栄希（園長）
住所・連絡先	埼玉県さいたま市緑区美園3-8-3
	☎ 048-762-6712
	E-mail mail@kirari-yuuai.com

○タイトル（保育計画）

選択性を取り入れた遊びの展開

○主な助成備品

くじらハウス（外用遊具）、絵本、ワミーやアイクリップ等の玩具、鉄琴や小太鼓等の楽器、平均台やマットの運動器具

1. 保育計画策定の目的

開園当時、園庭には砂場しかありませんでした。小さい子も楽しく遊べるよう、高さのない登れる遊具とベンチを購入させていただきました。上に登ることで、体力をつけながら挑戦する心を育むこと、遊具の下の空間やベンチを利用して、コミュニケーションが広がることを期待しました。

また、絵本を多く用意することで、一人ひとりがお気に入りの絵本を見つけられることを期待し、情緒、語彙、想像力を育むことを目的としました。

ワミー・アイクリップ・縫いさしセット、ミニカーセットなどの手先を使う玩具は、集中力や忍耐力も養うことができ、見立て遊びに発展させるため、想像力と創造力を育む効果を期待し、日常の遊びに取り入れました。

楽器はあえて合奏できるようなものを選ぶことで、楽器ごとの音の違いに気付き、違う楽器を組み合わせることで生まれる音の不思議さを感じる機会にしたいと考えました。

平均台とジャンプができるマットについては、身体を使った遊びをする機会が少ない子どもたちの弱点を補うため、遊びながら体幹を鍛え、脳の発達も促し、心身ともに健やかに成長していくことを期待しました。

あえて目的の違う様々な保育教材を導入することで、子どもたち一人ひとりが、自分の好きなこと、得意なことを見つけ、それを誰かと分かち合い、展開していくことが最大の目的でした。

2. 具体的な実施内容



新しい遊び場に子どもたちが寄ってきました。早速、登ろうとする子や下のスペースに潜ってみる子、それぞれ楽しんでいきます。

1歳児クラスの子どもたちにとっては、ベンチもかっこうの遊び場です。平均台やジャンプ台替わりにもなっています。



小太鼓、鉄琴、ウッドブロックは、合奏の際に使用しました。保護者の方にも見ていただくということもあり、子どもたちもいつも以上に力が入り、リズム感のある演奏を披露しました。



大好きなママにかっこいいジャンプを見てもらいました。





見て見て！変身！



玩具や絵本は、一人で楽しんだり、友達と会話しながら楽しんだりしています。
何かに夢中になる体験は、子どもたちの心を豊かにしていきます。

大きなかるた、楽しい！サイズが大きいので、3歳児の子たちも楽しんでいきます。



3. その成果と評価

くじらハウスのカラフルなクライミングホールドは、小さな子どもたちが掴んでみたいと思うような目線の高さにあり、自ら上へ上へと登っていきます。

全体の高さもさほどないため、上まで登れたという達成感を得やすく、その後どう降りたらいいかを考えたり、降り方を工夫したりなど、思考力の育ちにも良い影響を与えています。一人で出来なかった子も、日々の遊びのなかで繰り返し登り下りするうちに、やってみて、出来たという結果が自信となった様子です。また、ハウスの下の空間は子どもたちが好きな「狭さ」があり、時には肩を並べて言葉を交わしたり、お店屋さんや隠れ家になったりなど、様々な場として活用され、子どもたちのコミュニケーションの場となりました。ベンチについても集中して遊べるおままごとコーナーになったり、平均台代わりに歩いてみたりなど、設置されたことで子どもたちの遊びの世界が広がり、言葉のやり取りが生まれ、友達を巻き込み豊かな想像力と創造力が育まれただけでなく、挑戦する心も十分に育てていくことができると思います。

絵本を沢山いただいたことで、保育者が今の子どもたちに何が適しているか、何を求められているのかを十分に考える選択肢が広がりました。「今日は何が始まるんだろう」という子どもたちのワクワク感は膨らみ、集中力も高まります。絵本に綴られている豊かな色彩は制作に活かされ、文字や言葉は劇ごっこやごっこ遊びへと展開されていきます。園行事である発表会でのセリフを、子どもたちが考えたり、制作をするときの様々なデザインを決めたりする時、絵本は力を発揮します。また、お気に入りの絵本を手に取り、一人でじっくり見る時間も充実できています。「これね」「ほら見て」等、自分の世界に没頭する時間も、子どもたちの心を豊かに育む貴重な時間となっています。

ワミー、アイクリップ等は自分の世界を持ちじっくりと何かを作り出したい子には最適です。沢山の色の中から好みの色を見つけ、想像を巡らせることで気持ちは満たされていきます。そこから作品を完成させることができると、満足感・達成感が得られます。その様子を見た、細かな作業があまり得意でない子も、「自分もやってみようかな」というきっかけが生まれました。「どうやるの?」「教えて」「ありがとう」「おんなじだね」というコミュニケーションもみられ、予想以上の展開が見られます。子どもの創造力は豊かで、思ってもみない作品が完成されると、私達保育士にとっても学びになっています。

楽器については、まず楽器に自由に触れ、そこから出る音に親しむことを大事にしました。「こんな音が出た」という驚きや感動の表情は言葉では伝えられないほど輝いていました。音の違いや調和を存分に楽しんだ子どもたちは、保育者が主旋律を弾いただけ、それに合わせたリズムをとり、合奏を楽しんでいました。

平均台やジャンプマットは、室内での活動に使用しています。当園は園庭が狭く、戸外に散歩に出ることも多いですが、公園の遊具だけでは体幹を鍛えることや四肢の発達を促すことは不十分です。低年齢児においては、マットの上を歩くだけでも、十分体のバランスを取る必要があるため、全身運動になります。幼児においては、マットや平均台をロー

テーション化することで身体も頭も使って運動が出来ます。また、友達同士で「こうやったら？」という案が出たり、自分たちが使った後に協力して片付けたりすることも含めて、周りとのコミュニケーションも育っていきました。

今回、様々な保育教材が揃ったことで、保育園の生活の中で自ら好きなものを選ぶ選択肢がとても広がり、子どもたち一人ひとりの思いを満たすことが出来るようになりました。好きなことや、やりたいことを選び、遊びが充実することで自信が生まれ、またやってみようという気持ちが芽生えます。そしてその思いが連鎖していく様子も見られました。この度いただきました品々は、どの子の成長にも欠かせない大きな力となりました。

4. 今後の課題と展望

当園では、子どもたちが好きな遊びを選択するということが大切にしていますが、子どもたちの成長は目まぐるしく、保育者その変化に追いつけていない一面も見受けられます。今後も環境設定をより工夫することで、子どもたちのやってみようとする自主性は、さらに引き出していけると考えます。一人ひとりの育ちを保育者間でより細やかに見つめながら、どのように育んでいきたいかをさらに議論し、日々の保育に努めていくことが求められていると思います。

これからも子ども一人ひとりの眩きに耳を傾け、皆の絆を深め合い、互いに育ち、大人も子どもも輝ける園になることで、助成をいただいた恩返しとしたいと思っております。

以上